

BERCニュース

「グローバルコンプライアンス」テーマに

経営倫理シンポジウム・2014開催

会員企業三社の取組を紹介

経営倫理実践研究センター（BERC）主催、日本経済団体連合会、日本経営倫理士協会後援の、経営倫理シンポジウム・2014「日本企業のグローバルコンプライアンスに関する取組」が11月19日開催された。場所は東京都港区の国際文化会館岩崎小彌太記念ホール。はじめにBERC理事長である矢野薫NEC会長より挨拶。「各企業がグローバルに事業展開している中、すべてを日本本社からコントロールすることは難しい。ただし危

機管理、コンプライアンスという点は極めて重要で、全く現地任せというわけにもいかない。このシンポジウムからヒントを得てほしい。」と述べた。

基調講演は大江橋法律事務所代表社員の国谷史朗氏。「グローバルコンプライアンス経営とコーポレートガバナンス」をテーマに、会社・事業を取り巻く環境の変化、決裁をする場合の留意点、コンプライアンス経営を支える制度や仕組みなど幅広く概説した。法的リ



基調講演を行った国谷史朗弁護士＝国際文化会館岩崎小彌太記念ホールにて

スクの具体例として、粉飾決算や架空取引は本業とは別の新規事業を立ち上げるときに起こりやすい、本社の役職者が名前だけ海外法人の非常勤取締役を兼務するのは避けるべき等の言及があった。また、コンプライアンス担当者・部門の役割、コンプライアンス・危機管理の視点について話があり、特にクレームは会社発展の基礎（製品、サービス、開発の重要なヒント）であり、クレーム対応部門を優秀な人材に経験させるべきとのコメントがあった。最後に外国公務員に対する贈賄防止規制とファシリテーションペイメント（政府業務円滑化目的の支払）について各国法制毎に説明があった。その中で中国の商業賄賂に関連して、同事務所の林依利子弁護士からグラクソ・スミス・

クライン事件について解説があった。その後、BERC会員企業3社から自社の取組について発表があった。トップバッターはイオンの松本英一氏。テーマは「海外イオンビープルへのイオンの価値観醸成」。イオンが大切にしている価値観をいかにグループに働かせるかという点にフォーカスしている。食品会社のコンプライアンスをモノのコンプライアンスとヒトのコンプライアンスの二つに分けて説明があった。特に後者については二つの側面があり、まず各社のトップがどう考えるかということ、次に従業員がどう考えているかを知っていくことが必要だと述べた。海外各社がどのような体制にあるかという調査では、国連グローバル・コンパクト・セルファセメントツールを展開している、また企業の社会的責任調査を今年度から海外グループ会社にも広げて実施しているとの説明があった。特徴的なものは社会的責任調査である。この調査票はスタッフ部門が確認していることをとりまとめ、1



国谷弁護士をファシリテータに参加者からの質問に答えながら進められたディスカッション

07項目の質問事項からなる。現地側からすると1回目は大変だが、一度ベイスができれば後はスムーズにいくと説得して対応させているとのこと。行動規範については事業所展開ごと現地語版を用意している。今後は現場レベルのより実効性あるコンプライアンス・プログラムの提案・実施とグローバル法務人材の育成が課題だとして説明を終えた。

最後はパナソニックの永田真紀氏。前段部分はグローバルコンプライアンス推進のいわば平時の話。行動規範を23言語で策定し、グローバル27万人で共有していることのみならず、それを解説したコンプライアンスガイドブック、もともと日本人出向者教育用に使用していた各国別「法務ガイド」を現地社員教育にも使用するなど工夫がうかがわれる。年に一度行われるグローバル法務会議で本社・各地域の方針・課題を共有することを進めている。次に有事の話、国際カルテルの話に移った。同社では過去の事件もあり、2008年10月に「競争他社との活動に関する規則」を導入、社員の意識

第二十回BEO懇話会

経営倫理実践研究センターでは、毎年春と秋の2回、会員企業の経営倫理担当役員（BEO）の昼食懇話会を実施しているが、2014年11月19日、その20回目が大江橋法律事務所の植村幸也弁護士を講師に招き、東京都港区の国際文化会館で開催された。

国際カルテルの動向（米国を中心に）。最初に矢野薫理事長（NEC会長）から挨拶。「企業活動のグローバル化がますます加速する中、コンプライアンス、危機管理を十分意識しなくてはならない。昨春秋は外国公務員贈賄をテーマにしたが、今回は同様に重要なテーマである国際カル

ルテルを取り上げたい。」と述べた。植村氏は米国外カルテルの罰金上位の10社を示し、罰金額が一件500億円を超えるほどにもなっていること、この10年くらいで罰金額が急増していること、また、違反を犯した個人についても、実刑率が上がり刑期も長く

なっていると説明した。以前、外国人は米国人に比べ執行猶予付判決が多かったが、現在では全く差異がないとのことである。

国際カルテルの動向をテーマに

植村幸也氏が講演

次に最近の米国自動車部品カルテル問題でいかに日本企業の多くが処分されているかという話に移り、米国に直接輸出さ



国際カルテルの動向について講演した植村幸也氏＝国際文化会館にて

れた部品だけでなく、完成車として輸出された場合でも、米国市場に一定の効果が及ぶ限り米国反トラスト法の適用がある（域外適用）などいくつかの注意すべきポイント述べた。

また、米国司法省の組織図を示し、反トラスト局はFCPAなどを扱うCRIMINAL DIVISIONとは別の専門組織であること、加えてカルテルの制裁、量刑ガイドラインについても言及した。さらに捜査の流れについて説明があり、カルテル発覚の端緒は圧倒的にリニエンシー（当局への捜査協力により、罰金減免などの裁量的な免責を受けられる制度）からが多く、サビーナ（大陪審からの召喚状）を受けて初めて事案を知るような企業は、どこかがリニエンシーを使っていること、必要を強調した。その後、サビーナへの対応、リニエンシーの手順、※アムネスティ・プラス制度、司法取引についての留意点に触れた。

も大きく変わったが、さらに3つの誤った認識、すなわち①カルテルは会社の利益になる②カルテルを見つからない③カルテルをしても懲戒対象にならないを――正すため2011年のコンプライアンス委員会での討議を経て、カルテル行為に与させないようトップから徐々に現場レベルまで決別を誓い合うこと、また逆に現場レベルから上位に疑わしい行為について正直に語ってもらい徹底調査を行うこと、また人事面の施策強化、カルテル監査の実施など徹底的な行動につき細かな説明があった。最後に経営幹部に要請することとして、永田氏は①カルテル決別の思いを発信②気になる分野は再度洗い直し③疑わしい行為は直ぐに止めさせる④疑いを招くような言動をやめる――の4点を挙げ、これが「事業」と「人」、「信頼」を守ると締めくくった。

休憩後、参加者からの質問に対するディスカッションが国谷弁護士をファシリテータとして行われ、BERC河川口専務理事の閉会の挨拶で終了。

※アムネスティ・プラス制度

ある違反事実（A）を自主申告したところ、先に申告した企業がいないなどて免責を受けられるなど、当局に発覚していない別の違反事実（B）を申告できれば、（B）はもちろん（A）についても量刑の軽減を受けられる制度

BERCニュース第60号を以て 読者座談会

読者座談会・出席者 (アイウエオ順)

池田 裕紀子氏

(株) IHI CSR推進室コンプライアンスグループ課長

後藤 昇雄氏

富士ゼロックス首都圏(株) 経営監査グループ・グループ長

近藤 奈美氏

JX日鉱日石エネルギー(株)
CSR推進部CSR推進グループマネージャー社会貢献活動推進室長

殿原 鉄也氏

協和発酵キリン(株) 人事部多様性推進グループマネージャー

増本 章人氏

ハウス食品グループ本社(株)
管理本部CSR部コンプライアンス・リスク管理課長

河口中村千賀

BERC専務理事/事務局長
BERC業務担当理事/事務局次長
BERCニュース編集長



BERC活動に踏み込んだ意見も出た読者座談会



池田 裕紀子氏



後藤 昇雄氏

千賀 BERCニュースは2012年、52号から電子媒体になりました。「担当役員が紙媒体でなければ読まない」といった意見もあったことから、紙版と同じようにレイアウトしてPDF版も出しています。ウェブ化は時代の流れと考えていますが、皆さんの会社ではどうでしょうか。

後藤 当社の監査部門でも4年前からウェブ化しています。

増本 BERCニュースは、紙媒体の時はよく見

殿原 当社で、社内報をウェブ化したら、読む人が激減しました。紙の時代でも受け取る人が多かったのですが、紙の方が読みやすいようです。ウェブ

紙の時代でも受け取る人が多かったのですが、紙の方が読みやすいようです。ウェブ

紙の時代でも受け取る人が多かったのですが、紙の方が読みやすいようです。ウェブ

紙の時代でも受け取る人が多かったのですが、紙の方が読みやすいようです。ウェブ

紙の時代でも受け取る人が多かったのですが、紙の方が読みやすいようです。ウェブ

紙の時代でも受け取る人が多かったのですが、紙の方が読みやすいようです。ウェブ



近藤 奈美氏



殿原 鉄也氏



増本 章人氏

千賀 媒体は何であれ、大切なのは情報の質だと考えています。BERCの広報媒体としても一つ、「経営倫理」という冊子を発行しています。こちらを季刊誌で、論文を中心にまとめたもので、BERCニュースではホットな内容を売りにし、BERCの活動をメインに企業の動向をはじめさまざまな情報提供を行っています。皆さんに前号のPDF版をお配りしましたが、前号ではまだ部会・研究会の後半がスタートしたこと、時局セミナーのレポート、裏には、企業の出来事としてタイムリーなベネッセ情報流出について、それから企業不祥事の一覧。「潮流」と「アト短信」は経営倫理に関わり、日々神経を使っている読者の皆さんに、少し気持ちをほぐしていただこうという意味もあります。「潮流」は長く続いているコラムで、ライターの小山博之さんは元日経新聞論説委員です。味のある文章が好評ですが、内容も少しでも新しいものをと心がけています。

後藤 私は今監査部会に参加しているのですが、ニュースごとに、例えば監査部会の視点で見るとこのニュースはこう見える、とか、CSR部会の視点だとどう見えるか、といった部会の視点の取り方を合わせたコメントを、一言でも入れていただけたらいいなと思っています。

近藤 いろいろ書いた記事なPDF版は必要に迫られて作成。作り方はさらに考えています。

近藤 私社内報はやって、いただいた原稿を削るのとは大変でした。でも、削らないと伝わらないこともあるので、削らざるを得ませんでした。

河口中村千賀 写真は難しいけれど、イラストとか図表を入れたいですね。今、人気があっているのは先生の何という部会か、とか、そこでこんな資料を使っています、とか。人気のランキングを示すのは難しいかもしれませんが、ぜひお願いします。

近藤 社内展開のために、ニュース記事のリンクを流して社員で閲覧できるように、企業パスワードを出していただき、個人登録をしないでいただくと助かるのですが。

増本 「潮流」は好きなコラムです。前号の「スーパードールマン」はもう要らない。まさに今のテーマを扱っているところに「潮流」の本領が表れていると感じます。紙媒体は、記事にメインタイトルとサブタイトルがあつて、サブタイトルを見て「これ、読んでみたい」という気になったりすることが多い。例えば「ベネッセ」だけでは読まないかもしれないけれど、「名簿売買に抜け穴」とあると、気を付け

増本 「潮流」は好きなコラムです。前号の「スーパードールマン」はもう要らない。まさに今のテーマを扱っているところに「潮流」の本領が表れていると感じます。紙媒体は、記事にメインタイトルとサブタイトルがあつて、サブタイトルを見て「これ、読んでみたい」という気になったりすることが多い。例えば「ベネッセ」だけでは読まないかもしれないけれど、「名簿売買に抜け穴」とあると、気を付け

増本 「潮流」は好きなコラムです。前号の「スーパードールマン」はもう要らない。まさに今のテーマを扱っているところに「潮流」の本領が表れていると感じます。紙媒体は、記事にメインタイトルとサブタイトルがあつて、サブタイトルを見て「これ、読んでみたい」という気になったりすることが多い。例えば「ベネッセ」だけでは読まないかもしれないけれど、「名簿売買に抜け穴」とあると、気を付け

増本 「潮流」は好きなコラムです。前号の「スーパードールマン」はもう要らない。まさに今のテーマを扱っているところに「潮流」の本領が表れていると感じます。紙媒体は、記事にメインタイトルとサブタイトルがあつて、サブタイトルを見て「これ、読んでみたい」という気になったりすることが多い。例えば「ベネッセ」だけでは読まないかもしれないけれど、「名簿売買に抜け穴」とあると、気を付け

増本 「潮流」は好きなコラムです。前号の「スーパードールマン」はもう要らない。まさに今のテーマを扱っているところに「潮流」の本領が表れていると感じます。紙媒体は、記事にメインタイトルとサブタイトルがあつて、サブタイトルを見て「これ、読んでみたい」という気になったりすることが多い。例えば「ベネッセ」だけでは読まないかもしれないけれど、「名簿売買に抜け穴」とあると、気を付け

増本 「潮流」は好きなコラムです。前号の「スーパードールマン」はもう要らない。まさに今のテーマを扱っているところに「潮流」の本領が表れていると感じます。紙媒体は、記事にメインタイトルとサブタイトルがあつて、サブタイトルを見て「これ、読んでみたい」という気になったりすることが多い。例えば「ベネッセ」だけでは読まないかもしれないけれど、「名簿売買に抜け穴」とあると、気を付け

千賀 インデックスの立て方と、BERCのさまざまな活動にうまくたどり着けるように、というご指摘、さらに取材上の技術的な問題にまで踏み込んでいただきました。私は日本記者クラブで経済関係のジャーナリスト

河口中村千賀 ウェブを先に作って、それをもとに、BERCのスタッフが、専門家は、元日経新聞論説委員です。味のある文章が好評ですが、内容も少しでも新しいものをと心がけています。

河口中村千賀 ウェブを先に作って、それをもとに、BERCのスタッフが、専門家は、元日経新聞論説委員です。味のある文章が好評ですが、内容も少しでも新しいものをと心がけています。

河口中村千賀 ウェブを先に作って、それをもとに、BERCのスタッフが、専門家は、元日経新聞論説委員です。味のある文章が好評ですが、内容も少しでも新しいものをと心がけています。

河口中村千賀 ウェブを先に作って、それをもとに、BERCのスタッフが、専門家は、元日経新聞論説委員です。味のある文章が好評ですが、内容も少しでも新しいものをと心がけています。

近藤 私社内報はやって、いただいた原稿を削るのとは大変でした。でも、削らないと伝わらないこともあるので、削らざるを得ませんでした。

河口中村千賀 写真は難しいけれど、イラストとか図表を入れたいですね。今、人気があっているのは先生の何という部会か、とか、そこでこんな資料を使っています、とか。人気のランキングを示すのは難しいかもしれませんが、ぜひお願いします。

近藤 社内展開のために、ニュース記事のリンクを流して社員で閲覧できるように、企業パスワードを出していただき、個人登録をしないでいただくと助かるのですが。

近藤 私社内報はやって、いただいた原稿を削るのとは大変でした。でも、削らないと伝わらないこともあるので、削らざるを得ませんでした。

河口中村千賀 写真は難しいけれど、イラストとか図表を入れたいですね。今、人気があっているのは先生の何という部会か、とか、そこでこんな資料を使っています、とか。人気のランキングを示すのは難しいかもしれませんが、ぜひお願いします。

近藤 社内展開のために、ニュース記事のリンクを流して社員で閲覧できるように、企業パスワードを出していただき、個人登録をしないでいただくと助かるのですが。

中村 時局セミナーのこの場合、実施について、事柄は誰でも見られます。また、田中先生(BERC首席研究員)から、セミナーの紹介を広く伝えたいというご指摘があったので、かなり細かく記録したワイド文書を、会員登録がなければ見れないページに持っています。ということもしています。

千賀 そういう明確な区分け、割り切ったやり方がある大手企業の社長から「こんないい勉強会をやっているのに、なぜもっとPRしないの」と言われたことがあるので、重要なことだと、広報に

唱えた。しかし独裁だ
けが目立ち、衆議は伴
わなかった。衆議を口
にするのは簡単だが、
多様な意見が出やすい
仕組み、風土づくりを

漏集部ぞより